

# 月刊 やちまなこ

2022. 9.15 発行

No.298

## 9月号

釧路湿原国立公園 塘路湖エコミュージアムセンター（あるこっと）だより



サクラマス [ *Oncorhynchus masou* ]

釧路湿原は、夏から秋へと移り変わろうとしていた。

春、桜が咲くころに遡上が始まるのが、その名前の由来であるが、産卵期を迎えるのは夏から秋にかけてである。

海で多くの栄養を貯え大きく成長したサクラマスは、子孫を残すために母なる川に遡上してくる。

一方、河川で一生を過ごす個体もいる。それらは山女魚（ヤマメ）と呼ばれ「溪流の女王」とも呼ばれる美しい渓魚である。サクラマスの産卵行動は、このヤマメのいる河川で行われるため、サクラマスが放卵をすると、どこからかヤマメの雄が横入りをしてきて、自分の子孫を残そうと放精していくという。



## 塘路フィールドノート【8/15~9/14】

### 【野鳥】

夏鳥たちの季節が終わりがけですが、今年はまだまだ夏鳥が目立つ釧路湿原。これから秋に向け、徐々に水鳥たちの姿が増えてくるでしょう。



カワセミ (塘路湖畔)

青い宝石と呼ぶに相応しい美しい鳥。水辺で餌となる小魚を探す魚採り達者。



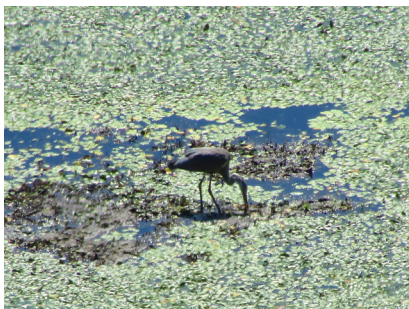
オオハクチョウ (サルルントー)

本来は冬鳥。気が早いのか、何らかの理由で渡りに参加できなかった個体だろうか。



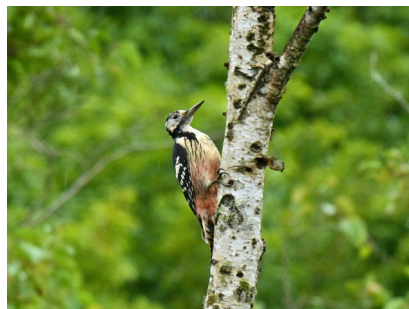
ハシブトガラ (サルルントー)

留鳥だが、8月に入り群れで動くのが目立ってきた野鳥。



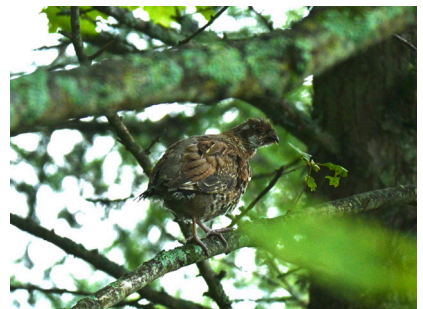
アオサギ (サルルントー)

繁殖が終わりにコロニーは閑散としているが、湖沼では多くの個体が活動している。



オオアカゲラ (サルルントー)

腹から下尾にかけて薄桃色で黒縞が混じるのでアカゲラと区別がつく。キツツキの仲間。



エゾライチョウ (塘路湖畔)

林道で見かけることが多い野鳥。歩くのは速いが、飛ぶのは苦手そうなキジの仲間。



## 【植物】

残暑厳しかった今年の塘路湖畔ですが、その暑さもひと段落し、花のシーズンもそろそろ見納めです。秋の結実の季節を迎えて、木の実や種子が目立つようになってきました。



エゾトリカブト (蝦夷烏兜)

烏帽子のような不思議な形の花をつける晩夏を代表する花。三大毒草のひとつ。



ツユクサ (露草)

晩夏から初秋にかけて、下草の中で深い青色の花をつける。ツユクサ科。



ツリフネソウ (釣舟草)

代表的な虫媒花。ラッパ状の花は花粉を運ぶハナバチたちを奥まで誘うため。



エゾフウロ (蝦夷風露)

この時期、風通しの良い路肩で目立つ可憐な花。フウロソウの仲間。



ツリガネニンジン (釣鐘人参)

ベルのような形をした可愛い花をつける。キキョウの仲間。



エビガライチゴ (蝦殻苺)

林道の脇に沢山の実をつけていた。よく観るとルビーのように美しい。バラ科。



オニグルミ (鬼胡桃)

和洋の製菓によく用いられる木の実。この時期は森に沢山のクルミが落ちている。



ミズナラ (水榭)

代表的なドングリ。夏から秋にかけて実を膨らませ秋に野生動物の貴重な食糧となる。



カラコギカエデ (鹿子木楓)

湿原帯に多い楓の木。晩夏に紅色の果実をつける。緑と紅のコントラストが美しい。

## 【水棲生物】

花や昆虫の季節は終盤を迎えたが、釧路湿原の湧水や湖底では、様々な生き物が暮らしていることを忘れてはいけません。今回はそんな水辺の生物を探してみました。



ニホンザリガニ (釧路湿原)

観察会の下見で探した在来のザリガニ。二の腕に突起があるのが特徴。



イサザアミ (釧路湿原)

藻類など安全な場所に集まっていた。三湖が、かつて海であったことを示す生き証人。



エゾホトケドジョウ (釧路湿原)

水中の枯れた草で縄張り争いをしていた。他のドジョウよりも中層を泳ぐことが多い。



## ◎縄文土器作りの野焼き（標茶町博物館共働）

8月中旬は7月の縄文土器作り講座で作られた土器を仕上げるための「野焼き」を行いました。まずは焚火の周りに器を置いて表面を隈なく下焼きをし、焼き場の温度調整に気を配りながら、最後に土器を中心に薪をくべて本焼きです。縄文時代に器を造る人々の苦労を体感しました。



## ◎秋のキノコ観察会（シラルトロ湖茅沼蝶の森）

9月3日（土）は、秋の湖畔でキノコ観察会を行いました。今回はキノコの生育環境の違いを主なテーマとして観察しました。また色形が似ているキノコでも匂いによって判別できるものも有るなどの解説が成されました。

参加者は針葉樹環境と落葉樹環境にそれぞれ発生するキノコを学び観察を楽しみました。今回初めて参加された9歳の女の子は、率先してキノコを見つけ、大人顔負けの知識を披露して他の参加者を驚かせていました。

確認種 約20種類 参加者 10名



## 10月の自然ふれあい行事

事前の申込が必要です。

### 塘路フィールドウォッチング～錦秋編～

〔日 時〕 10月22日（土）10時～12時

〔定 員・参加料〕 10名 無料

〔開催場所〕 塘路湖エコミュージアムセンター

◎申込・問い合わせは塘路湖エコミュージアムセンターまで

### 晩秋の湿原 野鳥観察会

〔日 時〕 10月29日（土）10時～12時

〔定 員・参加料〕 10名 無料

〔開催場所〕 シラルトロ湖・蝶の森周辺  
（集合場所はシラルトロ自然情報館駐車場）

◎申込・問い合わせは塘路湖エコミュージアム

### ザリガニウォッチ2～ニホンザリガニ編～

〔日 時〕 10月9日（日）10時～12時

〔定 員・参加料〕 10名 無料

〔開催場所〕 温根内ビジターセンター

◎申込・問い合わせは温根内ビジターセンターまで  
(0154-65-2323)

### 秋の紅葉を見に行こう

〔日 時〕 10月16日（日）10時～12時

〔定 員・参加料〕 10名 無料

〔開催場所〕 温根内ビジターセンター

◎申込・問い合わせは温根内ビジターセンターまで

◆日出・日入時間 8/15(4:27,18:25). 8/31(4:44,17:59).9/14(4:00,17:35)

～編集後記～

■塘路湖周辺ではオニグルミが実を落とし、ミズナラのドングリも膨らんでいます。ヤマブドウやサルナシも豊作と言えるほど実をつけました。水鳥も徐々に増え始め、シラルトロ湖にはカモ類の姿もちらほらと。8月16日の豪雨の影響を受けた道東の河川では、在来溪流魚が子孫を残すべくしっかり成熟していました。人間にとって秋の気配など微塵も感じられない気温の高い気象が続くなか、他の動物や植物たちはしっかりと次の季節へ準備しています。

釧路湿原国立公園

塘路湖エコミュージアムセンター あること

☎ 088-2264 北海道川上郡標茶町塘路原野

TEL：015-487-3003 FAX：015-487-3004

E-mail：emc@hokkai.or.jp

Instagram [torokoemc](https://www.instagram.com/torokoemc)

開館時間：10：00～17：00

（11～3月：16：00まで）

休館日：毎週水曜日 12月29日～1月3日

入館無料